

# サロン・あべの

サロン・あべのNO. 9

昭和62年3月14日(土)発行



あべのカーニバル

## △サロン・あべの▽

### この一年

—二月の出△会い

二月の出会いは「サロン・あべの」この一年を振り返って」をテーマに二月二十一日十三人の方が集いました。

昨年発足したサロン・あべのの一年間の活動(5頁の表)は、

○サロン・あべのの外から講師を招いてのゼミ

○サロン・あべのの内のパネルによるディスカッション

○見学会

○バザーやクリスマス会などのイベント

の四つに内容をわけることができる。みなさん方の意見から その人気順をつける。「リハビリセンター見学」と「クリスマス会」が同率首位。つぎに「女性障害者と職業」「年金法の改正」が続いている。ということは見学会、イベント、ディスカッション、講師を招いてのゼミ、と全般にわたって それぞれによかったようである。

それでは、今年は、と聞いてみると、圧倒的トップは「クリスマス会」、つぎに「あべのカーニバル」「他団体との交流会」が来る。そして僅差で「障害者生活シリーズ(結婚など)」が続く。以下、「一般の人対象のテーマで講演会」「野外での集い」「生産性のある課題」「職場や施設の見学会」「一泊旅行」また具体的などころで「天王寺博を見に行こう」「展覧会観賞」「手引き、車イス介助の方法」「ガン医学の話」などと、豊富にアイデアがぞくぞくと出された。

これらの貴重な意見を反映させて今年も「出合い、ふれあい、助けあい」を大切に活動していきたい、と二月の出会いは四時散会しました。

## あまりにもボランティア的な・

「サロン」をめぐる活動が、なぜボランティア活動といえるのかと、しばしば質問される。別に障害者の介助や介護を目的としているわけではない。配食サービスをするわけではない。

こういう質問をする人はボランティアを「誰かが誰かに何かをしてあげること」というイメージで理解しているようだ。そこでは明らかに「与える者」と「受ける者」とが分かれている。サロンでは、その区別がはっきりしていない。一方的に「与える」人がいない代わりに、一方的に「受ける」人もいない。

もうひとつ、よく聞かれることは「親睦活動をやっている、なぜボランティア活動といえるのか」という批判である。

それについては、家庭生活と比較して考えてみると良いと思う。家庭生活の課題は子供を教育し、就労していない人に経済的安定を与え、衣食住の生活を保障すること

であると言っただろう。

しかし、そういったことだけが重要なのではない。言いかえれば、家庭生活は何かの目的のための手段ではない。家庭生活はそれ自体、目的でもあるのだ。人は、衣食住のために家庭生活を営むのではなく、家庭生活そのものが必要だから、家庭を築くのである。家庭生活の本質は、夫が家族に給料袋を渡し、妻が子供を塾に行かせることにあるのではなく、夫婦の、そして親子の人間的な交流の中にあるのである。

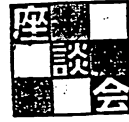
同じように、「友だち」は、自分が困ったときのために考えてつくるのではない。何でも買ってくれる父親よりも、「父」としてそばにいてくれる父親の方が子供にとって嬉しいように、「友だち」もまた「友だち」としてそばにいてくれる人の方が、私たちにとっては必要なであろう。

「サロン」は実はそういった「友だち」の集団なのだ。私は理解している。「サロン」がボランティア活動ではないと誤解されやすいのは「あまりにもボランティア的すぎる」からではないだろうか。(知)



サロン・あべの

# 順風の一年



司会 本日はお忙しい中 お集りいただき、真にありがとうございます。サロン・あべの(以後サロンと略す)も満一歳になりました。この一年を振り返ってもらうと同時に、これからのサロンを展望していただきたいと思えます。

サロン・あべの進水

司会 それでは、誕生前の様子から。  
河合 富田さん、井上さん、大島さんたちが、核になってグループ作りを 始められたと聞いていますか…

富田 そうですね、六十年の九月頃…

旭 そう、私がサロン準備委員会に参加したのが、その直後でした。

富田 あべのボランティア・ビューローの第一回ボランティア・スクールの修了者やビューロー・グループの方々の協力・支援でサロン準備委員会の開いたクリスマス会が ステップになりました。

河合 私はそのスクール修了後、当時のコーディネーターだった岡さんに紹介されて参加したのですが 発会式まで、あれよあれよという感じでしたね。

旭 一番頭に残っているのは 六・七十人に案内状の宛名書きをしたり、会場の下見で 階段があることがわかって かなりの介助者が必要だということ。不安に思ったり、年が明けてから 三月二十九日の発会式まで アツという間でした。

司会 サロンの名前は……

旭 各自 持ち寄りました。私は「フリーダム」「わすれな草」なんてのを……

富田 「ウェルフェア」とか「障害者と共に歩む会」いうのも ありましたよ。

河合 結局、地域性があり、誰でも 気

軽に参加できる感じがあるというところへ  
へサロン・あべのVに、意見が まとまっ  
たようでしたね。

サロン・あべの船山出

富田 サロンは特定の障害を持つ人のみ  
でなく、いろいろな障害を持つ人と健常者

## 出席者

(五十音順・敬称略)

サロン・あべの手話通訳

旭 純子

サロン・あべの会計

河合 恵子

サロン・あべの代表

富田 慶子

あべのボランティア・ビューロー

コーディネーター

前田 博子

司会

機関紙「サロン・あべの」編集

石 田 律

が 区別なく集ってお互いに もっとわかり合い、共に生きる地域生活を目指しているところというところで 出発しました。

河合 その考え方は、徐々に 明確になってきているという感じがします。初めは仲間うちだけの集りに、見られがちな部分があったりして……

旭 そうそう 障害者がメンバーうちに多いので障害者団体のようにとられたり、ボランティア グループとしてみられなかったり 大変でしたね。そんな過程で

「当事者だからこそできるボランティア活動として啓発活動があるんちゃうか……。啓発活動も立派なボランティア活動や……」  
とこう気持ちがわいてきたように思います。

——遅れた 前田さん あわてて

駆け込んでくる——

前田 スイマセン。老人福祉センターで話が長びいてしもうて……。ほんまに遅くなって スイマセン。

司会 忙しいところご無理いまして。ちようどいま、みなさんに 発会するまでの経緯や意見 そして命名とか サロン誕

生までの話を聞いていたところです。

前田さんにも入っていただいて この一年の具体的な活動について話を進めていただきます。その前に、活動内容(別表)を整理しましたので……。



前田さん

### 講師を招いて

司会 まず 講師を招いてのゼミから。

前田 いろいろなところにアンテナを伸ばして すてきな人を見つけてきはるなあ と思います。

富田 外部からの人選は、時期というか話題性というか、その辺が、むずかしいですね。四月、七月の「年金」はタイミングがよく、好評でしたよ。

旭 もうひとつむずかしい点は 講師との綿密な打ち合わせですね。これをしなかったため サロンの趣旨を理解されない

ままにちらのおもわくとは違ったお話になった例がありましたね。

### ディスプレイションを 通じて

司会 下準備の必要性は つぎの パネラーによるディスプレイション でも同じことがいえるのではないですか。

富田 部内という気安さから 確かにありました。逆に その気安さがいい方に出て、具体性をもった質問が出たのは よかったと思います。

河合 いままで知らなかった障害者の生活やいろんなことがわかり、得るところが大きいですね。

前田 それにまた、お互いの障害についても、話し合いを通じて ほとんど理解が広がっていくといいですね。ゆくゆくはボランティア論なんかも 話題になったらいいなあ と思います。

### リハビリセンターの

田見孝子△△云

河合 平野のリハビリセンターの見学会はよかったですね。みなさん、好評だったみたい。

旭 特によかった企画のひとつと思います。ただ見学中に、視覚障害の方々のために、口述説明をしたり、車イスの人に、見やすいように前をあけてあげたり、というふうな、小さな思いやりの輪がもっと広がって、ほしかったと思います。お互いにハンディーを補足しあえるような、小さな心遣いの大切さを痛感しました。

冨田 それがね、プライベートなことです。あのときの、辻田さんの介助は、今思い出してもうれしいです。うれしいで思い出しましたが、カーニバルでのテントです。小倉さんが張って下さったテントは助かりました。

## バザールや

### クリスマスマス芸

河合 暑かったですね。あのバザールはとても印象的でした。

前田 とにかく、暑いなか、ご苦労さま

## サロン・あべの

### 一年の活動

六十二年	四月	男性ボランティアとの交流会 国民年金改正法について	八月	岡さん、前田さんの歓送迎会 大阪市ボランティア活動振興基金助成金申請書を出す
	五月	阿倍野今昔―温故知新	九月	コミュニティとボランティア 障害者が語る地域生活
	六月	リハビリテーションセンター 見学	十月	あべのボランティア・ビューロー ―交流会に参加
	七月	国民年金改正法についてⅡ 機関紙ハサロン・あべのV創刊 あべのカーニバル参加	十一月	クリスマス集い 昭和六十一年度大阪市ボランティア活動振興基金助成金の交付を受ける
			十二月	
六十二年	一月	女性障害者と職業	二月	この一年を振り返って

でした。準備期間がもっとあれば、手作り作品、リフォームなど、工夫もできたかも知れませんがね。冨田さんや山本さんなんかメンバーがそろってはることやし……。

司会 クリスマス会はどうです？

前田 部屋が狭いかな、と思われるほど

人が多かったですね。舞台での見せ物(歌、手品など)の他に、ゲームなどをおりませてもよかったですかな……。いろんな障害の人がいるので、ゲーム内容なんか、とてもむずかしいけれど、だからこそ、何か画期的なゲームを考えたらおもしろいと思う。

旭 そうですね。プログラム作りをも

っと考える必要があるように思います。

五十人もいるんだから お互いがもっと  
交流できるように……。

### 機関紙もつぎつぎと

司会 機関紙がこの記念号で九号になり  
ます。

前田 みごとです。感服しています。月  
一回のペースを あんなにもきちんと出せ  
るなんて 見習いたいです！ 活動報告と  
みんなの声、会員紙として、充実してい  
るな、と思います。

旭 会紙によって、毎月の出会いのと  
きに、先月の出会いの内容を知ることが  
できるのは とても楽しいことです。

富田 機関紙はサロンの大事な柱とし  
た  
いです。

### 面舵(おもかじ)いろいろ

司会 いままでの活動を振り返ってら  
ったのですが これらの活動を通して 発  
見されたことは。

河合 知らないということのこわさ。視  
点の違い。時間の流れのどらえ方の相違。  
をあらためて発見しました。

旭 障害者と健常者の間に相互理解を  
深めるために 壁にぶつかることは何と  
なく予測がしていました。障害者同志の  
間にも ニーズの違いによって、多くの壁  
があることを知り、正直いって大発見で  
した。「ニーズの違い」の存在……。

富田 人それぞれ、いろんな資質をも  
っておられるものだなあ と驚きました。こ  
の資質はサロンの財産ですよ。この財産  
をうずもれさせておく手はないですよ。

### ユニークな

#### ボランティア

#### 活動として

司会 手前みそになりますが サロンが  
よく「バイオニア的」という形容詞がつけ  
られるのは。

河合 そりゃ なんていったって ボラ  
ンティアをする人 される人の区別がない  
点ね。

富田 障害の種類や障害があるなしにか

かわらず、メンバーが運営委員として主体  
的に動いていることね。



富田さん

旭 運営もやけど 障害者の方々が各  
々の立場から発言し、動いてはる。それと  
単なるボランティア交流会と違うし、さっ  
きひとりひとり資質を持っていてという話  
がありました。本当にひとりひとりがユ  
ニークな存在であることです。それに加え  
て会員制でなしに 自由参加制であること  
も 強調したいです。

前田 いままでの話とダブるんですが障  
害者と健常者の触れ合う場を求めて、外出  
の機会の少ない障害者にひとつでも多く外  
出先を作り、区内という小地域に サロン  
的な場というか「集う場」があるというこ  
とは 阿倍野区の「財産」といえるのでは  
ないでしょうか。だから 出来ることなら  
ば 広い範囲への広報が出来るといいです  
ね。

# サロン・あべのの 羅針盤

司会 最後に、サロンのこれからについてというか、夢も含めてビジョンを。

河合 ボランティアする人 される人なんていう枠を離れて 様々な角度からものごとを考えてゆきたいし、一歩進んだボランティア グループとしての特性を伸ばしていきたいなあ。



河合さん

旭 ひとりひとりを魅きつけ ひとりが自分の個性を発揮することができるといふようなグループ作り。自己発見 自己向上が相互理解へと結びついていけるようなプロセス作り。をしたいのです。

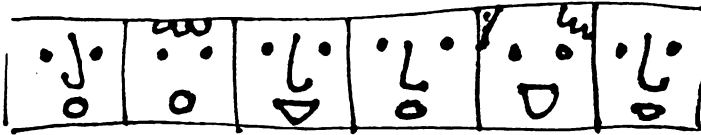
富田 活動の拠点となるホームを持ちたいですね。

河合 いつでも 誰でも 出入りできるホーム…。イイですね。ぜひほしいなあ。

「サロンあべの」にももの申す

あべのさくら・ピラー

前田博子



「サロンあべの」一周年おめでとうございます。新聞発行もしっかりと8回を数えますます意気盛んな様子を伺いながら、これからの「サロンあべの」がこんなふうな発展したらなあと思いをはせてみました。

「サロンあべの」のいいところは、とにかく参加している人が皆んな自信を持っていること、自分たちのやっている事に「惚れてるな」と思わされるところが素敵だなあと思うんです。だから、一つ気をつけなければならぬとすれば、ただのサークルみたいになってしまわない事じゃないかなあと思います。

だから、「サロン」で学んだこと、知り合ったことをどう具体化していくか、ということはただのサークルではなく、啓発活動をボランティア活動であると位置付けた「サロンあべの」の本領の発揮どころと言えらるかもしれません。

例えば、参加経験のある人たちと一緒に阿倍野区版の障害者情報を整理してみる（どこかの受け売りみたいだけど）とか…。いろいろな可能性を秘めた「サロンあべの」。とってもしっかりも期待しています。

司会 発会までの状況、この一年の活動  
そしてこれからのサロンなどについて  
貴重なご意見をありがとうございました。



旭さん

旭 本当は 私たちなんかよりも「ケ  
リヤ」君の方が 準備委員会の状況やいき  
さつについて、よく知ってるし、冷静に見  
てるかも知れません。

「ケリヤ」君にインタビュースることが  
できたら もっともっとおもしろいお話が  
聞けたかも知れせんね。映画「ドン松五  
郎」のように「ケリヤ」君も、お話できた  
らいいのね。(笑)  
司会 次回の座談会には ぜひ 実現さ  
せたいですな。(笑)  
長い時間、お疲れさまでした。

## PROFILE

### 富田慶子さん

「こんにちは いそがしいのにすみませ  
ん こないだはど〜も」なんともエレガ  
ントなトーンでのあいさつは、フンフリと  
相手をなごませ、やわらかく話しをつぎへ  
進めるあたり、なんともいえないムードが  
ある。サロン・あべのが発会したころ、高  
校へ合格した実幸ちゃんが あべのボラン  
ティア・ビューローの室へチョコチョコ顔  
を出していた。この子が富田さんの妹さん  
とばかり…。それほど声は若いし、持つ雰  
囲気も若い。このソフトな見かけにかくさ  
れた芯の強さはなかなかのもの。会に対す

### お知らせ

△サロン・あべのV四月の出会い

日時 昭和六二年四月十八日(土)

午後一時〜四時

場所 育徳コミュニティセンター

二階研修室 車いす有

(阿倍野区阪南町五十一番五十二  
八、地下鉄西田辺北西五分)

内容 「福祉電話教室」視覚、聴覚、  
肢体障害者及びご老人方が共に

利用出来る電話器種とその活用  
についてNTTの方よりお話し  
を伺います。

会費 なし(カンパ歓迎)

連絡先 TEL06-691-1028

富田 慶子

る情熱は人一倍強く、遠大なビジョンをも  
っている。イギリス・サッチャー、フィリ  
ピン・アキノ、社会党・土井たか子、サロ  
ン・あべの・富田慶子。いずれ劣らぬトッ  
プである。





# ＣＰのきんちよう

山本篤江

私たちＣＰの者にとって、きんちようと言う、理由の解らない物には、ほとほと悩まされます。

ちなみに私の場合を取り上げてみますと（人によってちがいますが）遠い昔を思い出してみました。

小学校二年生の夏のことです。突然右手が前にこなくなり、その内食事も、えんぴつも持てなくなり、あげくの果てには、言語障害さえも出て来て眠る事も出来なくなり、体を二つ折れにするしか方法がないほどの、酷い物でした。もどに戻るまで一年の期間が、かかりました。それは、今から考えると、暑さ負けからきたＣＰのきんちようのきつい物だったと思います。そして、つぎの夏もつぎの夏も続き、私にとって楽しいはずの夏休みが、恐怖の夏休みにな

りました。その内、大きくなるにつれて、だんだん出なくなりましたが、夏は、今でも好きな季節ではありません。歳月が流れ大人になり、子供の頃よりは、あまりきついきんちようは出なくなりましたが、自分の意志ではどうする事も出来ないものがやっています。

たとえば、睡眠不足の後、熱が出た後、出かける時、時間がないと思えば、そう思うだけでも、きんちようして手足が動かなくなります。自分のやっている事を横でじっと見ていられると、いつもだったらなんでもない事が出来なくなるとか、写真を写す時なんかは悲惨なものです。と言つのは顔にきんちようが出るので、顔がゆかむのです。初対面の人に合う時もそうです。ですから、何回か合ううちに初めの時とは、ぜんぜん違う表情になってくるとよく言われます。それもこれも、きんちようから来る仕業なのです。これは、自分でどうにもならない、どこから来るのかも、まったく解らないものです。私は、まだ少量の薬でおさえられるだけ幸せです。

（編集者注 ＣＰ＝脳性マヒ）

# ろうあ者問題（仮題）



旭 純子

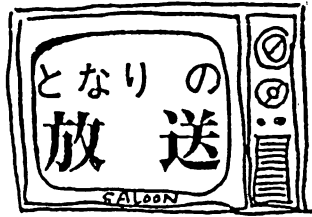
次号から、「ろうあ者問題」について連載されることになりました。

去年一年間かかって書きあげた卒業論文の抜粋です。

お読みいただいたろうあ者、健聴者の皆さん、意見・感想・おしかり・等ありましたら、どんどんお寄せ下さい。その都度みんな一緒に考えていきたいと思っています。

「ろうあ者問題」を「ろうあ者」だけの問題としてでなく、広く障害者問題（あまり好きな言葉ではありませんが）として、私たちひとりひとりの生活の場としての社会の問題として考え直すためのキッカケ作りができれば幸いに思います。

本当は、皆さんにお読みいただけるようなシロモノではありませんが、何かを感じ取っていただけるなら、とてもうれしく思いますので、ヨロシクお願いします。



劇団 態変 87春の公演

水は天から  
ちりぬるを...

■ みにきてヤ! ■

4月19日(日)

尼崎労働会館

4月25日(土)

芦原橋解放会館

会費 1500円

尼崎連絡先: 永岡

TEL06-494-3980

大阪連絡先: 福森

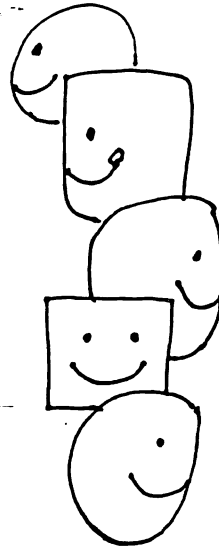
TEL06-349-1217

文の里連絡先: 斉藤

TEL06-621-4086

劇団「態変」を創立して約4年になり、1年に1、2回東京、大阪、京都で公演して 障害者の個性的文化の向上を目指して頑張っています。今年も又、尼崎と大阪で公演しますので多くの人に観に来てほしいのです。今年もやるしかない!

斉藤 孝文



## あったかムードの御点前

7日、大阪で観測史上4番目の、積雪7センチを記録した、春の大雪。翌3月8日

(日)、晴天にはなったものの、雪どけと相まって、寒さはひとしお。この外の寒さがうそのように、王子神社の茶室は、障害者と健常者が、和気あいあいの、ほんとうの春。

こんな、あったかムードのなか、

裏千家 網谷保子先生に、御点前の指導を受けている、目の不自由な方々の御茶会が開かれました。平素の熱心なお稽古がうかがえる、みごとにフクサ捌に、しばしうっとり。茶道にみる日本の伝統美を、墨痕あざやかな「一期一会」の掛軸、床の間の生け花などとともに、満喫したひとときでした。

(石)

### 編集後記

おかげさまで、サロン・あべのは満一歳になりました。その記念号として、本号は誕生までのこと、この一年間の活動、これからのサロン・あべのことなど、より一層サロン・あべのを理解していただくよう特集を組みました。これから三歳 五歳...と、サロン・あべのを大きく育てて下さい。

